

キャラクター名  プレイヤー名

シンドローム	ウロボロス		ワークス	レネゲイドビーイングA	カヴァー	
	エグザイル					
オプション		年齢	14	性別	女	
覚醒	忘却	衝動	殺戮	初期侵食率	54	%
出自	古き陰陽師の家系	経験	出会い	邂逅		

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	30
肉体	3	1	0			4	行動値	6
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	6
精神	2	0	0			2	戦闘移動	11
社会	1	0	0			1	全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	9		射撃	1		RC			交渉		
回避	1		知覚			意志	1		調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
鬼切りの太刀 (髭切)	白兵	4r+9	3	10		基本侵食値+4
斬滅ノ太刀	白兵	9r+10		25		コスト7
斬滅ノ太刀↑100	白兵	10r+11		30		コスト7
+鬼門		0				+コスト4 +要の陣形 対象を3体に変更 シリ1Lv回

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0
<b>ロイス</b>					
対象	感情(pos)	感情(neg)	消費	消費	消費
ロイス:遺産継承者P		N			
ロイス:傍らに立つ影P		N			
		N			
		N			
		N			
		N			
		N			
		N			
		N			
最大財産P:	2	残り財産P:			

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
原初の白:フルパワーアタック	3	4+2 (3)	セットアップ	至近	自身	自動	↑80	
効果:	行動値が0になる ライト中の攻撃力+(Lv×5)							
コンセントレイト:ウロボロス	2	2	Xジャー	-	-	対決	-	
効果:	C値- (Lv) 下限7							
原初:オールレンジ (ロイス)	5	2+1	Xジャー	武器	-	対決		
効果:	判定ロイス+ (Lv) 個							
伸縮腕	3	2	Xジャー	視界	-	対決	-	
効果:	射程を視界に変更し、命中ロイス-3+Lv個							
怒涛の大蛇	1	4	Xジャー	視界	シオン(選択)	対決	リミット	
効果:	前提:伸縮腕 射程を視界に、対象をシオン(選択)へ変更する シリ1回							
原初の赤:要の陣形	3	3+1 (3)	Xジャー	-	3体	-	-	
効果:	対象を3体に変更する シリ1 (Lv) 回							
原初の灰:鮮血の修羅	3	6+2 (5)	Xジャー		-	対決	↑120、殺戮	
効果:	1点でもHPダメージを与えた場合、対象はリリアップに(Lv×10)点のHPを失う 自身HP5点ロスト							
原初の黒:フェイスビット	3	4+2 (3)	オート	至近	自身	自動	↑100	
効果:	自身が行うダメージロールの直前に使用 ダメージを+ (Lv) Dする ライト1回							
ヒューマズンネババー	1	(5)	常時	至近	自身	自動	RB	
効果:	衝動判定ロイス+ (Lv) 個							
オリジン:ヒューマン	1	2	マイナー	至近	自身	自動	RB	
効果:	あらゆる判定の達成値+ (Lv) する							
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

★式神を従える妖刀の少女  
陰陽師の家系に生まれた少女。古くから妖(ジャーム)を狩ってきた一族の生まれである。  
はよく夢をみた。しかしそれはいつも決まって惨劇の悪夢だった。  
そして彼女は夢の中の声に耳を傾けてしまった。

「教え。数多の魂を。」

その後、彼女はオーヴァードに覚醒した。手には刀が。しかしその刀には過去に散っていった陰陽師や斬られた妖の怨念がとりついており、覚醒したばかりの彼女は記憶を失い、暴走状態となった。過去を忘れてしまった私には、刀に呼び起こされるジャームを狩るということしか頭になかった。

・・・それから私がが正気を取り戻して最初に目にしたものは、血と死体に埋め尽くされた惨劇の跡と、切り落とされた腕を抱えながら私を押しさえつける隻腕の鬼だった。  
その鬼は名を茨木童子と名乗り、私の式神となった。